

<クウェート国電力水省（MEW）向け造水技術研修>

（一財）中東協力センターは、2013年11月25日から同12月6日まで約2週間の日程で、クウェート国電力水省（以下 MEW）向けに、海水淡水化技術研修を実施致しました。同研修は、（一財）造水促進センターへの研修委託契約の下、世界の水ビジネスマーケットで活躍されている本邦企業複数社に講師をお願いした結果実現したものです。

（一財）中東協力センターは、クウェート国 MEW 向けの水関連研修では、過去 2009 年にも「水質浄化および管理」というテーマで研修生受け入れ事業を実施しております。今般の研修は、過去に行った同研修実績が評価された形で、再度 MEW 側から研修生受け入れの依頼を受けて実施したものです。

今回の研修では、クウェート国で稼働している複数の造水施設から、前線で活躍しているオペレーターと、本省にて資機材の調達等に従事している契約担当者を含め、総勢 10 名の研修生を受け入れました。研修生の年齢は 20 代から 50 代まで幅広い年齢層からの参加がありましたが、多くは 30 代半ばで、まさにこれからクウェート国の水インフラを背負って立つ人材を受け入れる結果となりました。

研修では、水についての概論から始まり、淡水化技術の概要（蒸発法、膜法、その他）、各々造水技術を擁する企業の製品紹介や、各々プラントの運転・管理事例の紹介を行いました。加えて地方研修では、福岡にある本邦最大の膜法海水淡水化施設である「まみずピア」を訪問し、実際の膜法海水淡水化設備がどのように設計・建設・運転・管理されているのかを学びました。

滞在日程 2 週間弱のうち、土日を除く研修日数は 10 日間。この中で地方研修・施設見学（福岡および大阪）を含めた授業コマ数は 21。基本的にクルマ社会のクウェートから出てきた研修生たちが、地下鉄・高速バス・飛行機・新幹線・在来線を駆使して地方行脚をこなし、東京では朝から夕方まで勉学に励む事を求めた同研修は、研修生たちにとっては多少キツイ行程であったにも拘わらず、講義中の真剣な受講姿勢と活発な質疑応答に鑑みて、とても有意義な時間が過ごせたであろう事は間違いありません。

研修の最終日に行われた研修評価ミーティングでは、研修生全員に予め記入をお願いしていたアンケートを回収・集計し、その結果を披露するとともに、研修生から口頭のフィードバックをもらう時間を設けました。その結果、今回の研修内容に対して 10 人中 9 人が「とても満足」または「満足」と回答しており、研修の有効性を裏付けられました。アンケートの中には、「もっと詳細な内容の研修を実施して欲しい」との声もあった事から、今回の基礎研修を踏まえて、将来的に詳細研修の実施要請がある可能性も否定できません。

今後とも同様の研修を通して、クウェート国の発展に寄与できる機会を設けていきたいと思っております。

